

シカコロとノネットエの2人で、舟の上で戯れに漢詩をつくって飯田氏に見せました。

氷雪の雪山まさに三十日にならんとす

曉天に艇を雇いようやくに思う

蓬底何ぞもちいん睡りにつくこと無きを

送迎兩岸幾多の山

(氷雪の山を越えること30日になろうとしています)

夜明けに舟をやって川を下り少し余裕が出たように思います

だからといってどうして舟の底で眠っていられましょうか

舟が進むにつれて兩岸の山々が過ぎていきます)

チエツフマクンベツの東岸、フシコオベレベレヲの西岸、ホンベケレの東岸はいずれも急流で矢のように早く流れています。この辺りの川筋は複雑で、その上、流れに倒された木が数多く横たわって流れをはばんでいるので、雨のたびに川筋の様子が変わってしまいます。この土地の人でさえも、この辺りの川筋を舟で下ることは非常に怖がっているということです。

また、この辺りは十勝石と呼ばれる良質の黒曜石があると聞いたので、中州に舟を繋いで探してみたところ、わずかな間に10個余りを拾うことができました。その中には虎のように黒い縞のある虎斑と、白い筋がはいったものの2種もあり、これらは最も珍しいものでした。

ヌブカの西岸には人家が4軒あり、それを過ぎると東岸にホンベケレ、ヤウシがあります。ヤウシは秋には鮭漁をするところだということです。私は舟に腰を下ろし、水しぶきとなって舟底にたまる水をワツカリという水汲みですくっては捨て、またすくっては捨てるを繰り返して、帯広から6キロで川幅36メートル余りある札内川と十勝川の合流する地点に到着しました。札内川は十勝川第4の支流で、その水源は神湖にあるといっています。

その上流にある山は十勝、様似、浦河、三石の4つの場所にまたがり、頂上には1つの湖があつてトドやアザラシが住み、ワカメもあるといい、それは時々下流に流れてくることもあるそうです。湖は東南の風が吹けば水が増え、西北の風が吹けば例え100日間雨が降り続いても水は増えないと